

欧州とアジアにおける EVシフトと 自動車産業

日時 2022年2月19日(土) 13:30~17:30

場所 オンライン開催 (Zoomウェビナー)

司会・コーディネーター
遠山 恭司 (本学経済学部教授)

報告者

- 蓮見 雄氏 (本学経済学部教授)
EUのクリーンモビリティ戦略と新産業戦略
- 家本 博一氏 (名古屋学院大学名誉教授)
『欧州バッテリー同盟』と『電池規制』
- 李 在鎬氏 (広島市立大学教授)、
■ ステファン ハイム氏 (京都大学准教授)、
■ 垣谷 幸介氏 (豊田自動車技術中心(中国)有限公司)、
■ 塩地 洋氏 (鹿児島県立短期大学学長)
車載2次電池のバリューチェーンと日中韓における
企業間分業関係：中国での実地調査を踏まえ
- ステファンハイム氏 (京都大学准教授)
中国におけるEVバッテリー産業の構造と展開
- 垣谷 幸介氏 (豊田自動車技術中心(中国)有限公司)
中国NEV市場と動力電池を巡るメーカー戦略の考察
～トヨタ自動車の事例を中心に～
- 李 在鎬氏 (広島市立大学教授)
現代自動車グループの脱炭素化の移行期における両利きの経営

討論者

- 清 响 一郎氏 (関東学院大学名誉教授)

対象者

本学学生、教職員、校友、一般

申し込み

事前申し込み 要

以下のwebサイトよりお申し込み下さい。※2月18日(金)までに、ZOOMのIDとパスワードを送信します。

<https://docs.google.com/forms/d/1b4lnjO9tZXjohOVSnVgidx3yvoZlBenT7u5o3g9Tqc8/>

参加費 無料

本公開講演会は、立教大学経済研究所プロジェクト研究「コロナ危機とEU統合の再検討」、及び立教SFR共同プロジェクト研究「欧州におけるEVシフトと生産・インフラ・ネットワークの再構築と日系企業への影響」の活動の一環として行われる。

2019年末、EUは、新たな成長戦略として欧州グリーンディールを打ち出し、COVID-19危機を契機として合意されたEU共同債に基づく復興基金の中核に位置づけられた。2050年ゼロカーボンを実現するべく、2021年には国境炭素調整メカニズムの提案を含む一連の法令パッケージ (Fit for 55) が追加され、EUは脱炭素化への歩みを速めている。

EUは、これまで温室効果ガス削減に取り組んできたものの、交通部門では内燃エンジンが主であったため、その削減は遅々として進まなかった。この状況を打破するために、EUは、パリ協定以降、自動車の電動化 (EV) を含むクリーン・モビリティ戦略を強化し、それは欧州グリーンディールの構成要素の一つとなり、2020年12月に「持続可能なスマートモビリティ戦略」を打ち出している。今や、EVは交通部門の脱炭素化にとって欠くことのできないものとなっている。

そして、現在、その先頭を走っているのが、EUと中国である。自動車産業の電動化は、インテグラル型からモジュラー型へ製品アーキテクチャのシフトを伴い、バリューチェーン全体の变革をもたらす可能性がある。自動車産業は「産業の中の産業」と呼ばれるように、他の産業への波及効果大きい。

そこで、「自動車産業の電動化の移行期におけるバリューチェーンと企業間分業～日中韓の比較～」(科研費基盤研究(C) 20K01856、研究代表：李 在鎬)に取り組んでいる研究者の方々の協力を得て、公開講演会「欧州とアジアにおけるEVシフトと自動車産業」を開催する。

お問い合わせ

経済研究所

E-mail : r-inst-e@rikkyo.ac.jp

TEL : 03-3985-4121

主催：立教大学経済研究所

共催：立教大学経済研究所プロジェクト研究「コロナ危機とEU統合の再検討」、

立教SFR共同プロジェクト研究「欧州におけるEVシフトと生産・インフラ・ネットワークの再構築と日系企業への影響」